

【総合基礎科目領域/人間基礎科目群】

科目名		ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
地域社会学		NLA21_006	選択	1	2	前期
担当教員		研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
堤 美智		413	michi.tsutsumi	木曜日 12:10~12:50		
授業の目的・概要		日本における村や町に地域社会の原型を求め、近代化と都市化にともなって変化をしてきた地域の実態を概観する。日本の伝統的な「家」と地域社会の関わりに焦点をおき、現状と課題を考える。また、グローバル化の進展する今日、ローカリズムの持つ意味、ルーラルとアーバン、エスニシティの問題について検討する。地域社会学の特徴を理解し、日本の農業、農村、食糧の実態を把握する。さらに日本農村の文化、暮らしの変遷をたどり、地域社会を捉える力を養い、保健計画や健康指導を行うための知識と実態把握ができることを目指す。自身が住む地域社会を客観的に捉える力を養う。				
授業形式・方法		☒ 対面授業 ☐ 遠隔授業(双方向型) ☐ 遠隔授業(自主学习)	☒ 講義 ☐ 実習 ☐ 演習 ☐ 実技	☒ PBL ☐ グループワーク ☐ その他 ()	☒ 反転授業 ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク	☒ ディスカッション・ディベート ☐ 実習・フィールドワーク
学習上の助言		講義形式で授業を進める。毎回リアクションノートを書く。				
教科書		毎回、講義資料を配布する。				
参考書		必要に応じて映像資料等を利用する。				
外部教材						
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針		
①	地域社会の特徴を理解し、実態を把握する。			HSU(1)(2)		
②	日本の地域文化や暮らしの変遷をたどり、地域社会を捉える力を養う。			HSU(2)(4)(5)		
③	自分が住む地域社会を客観的に捉える力を養う。			HSU(2)(3)(6)		
授業計画						
回	学習内容等		授業方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	地域社会学：ガイダンス		講義	準備学修として、自分の地域を調べてみる。		
2	人びとの生活拠点としての暮らしを農村と都市の違いから学び、また村のしくみ・地方とは何か、先進国の農村社会の事例から学ぶ		講義 ディスカッション	復習学習として講義内容のノート振り返る。		
3	「家」の論理：先祖と日本人について考える食と健康		講義 ディスカッション	前回のノートを見直す。復習学習として、「家」の論理・家族と女性の関係からわからなかった言葉を再度学びなおす。		
4	少子高齢化について、社会的背景と人が育つことから地域社会を学ぶ		講義 ディスカッション	少子高齢化についてわからなかったことを学びなおす。		
5	地域の高齢化と福祉について学ぶ：健康に老いること		講義 ディスカッション	前回のノートを見直す。復習学習は地域の高齢化と福祉からわからなかった言葉を再度学びなおす。		
6	混住化と地域社会について学ぶ		講義 ディスカッション	前回のノートを見直す。復習学習として、わからなかった言葉を再度学びなおす。		
7	農業と環境について農業の現代的意義を学ぶ 主食であるコメについて学ぶ：伝統食について家族と女性の関係から学ぶ		講義 ディスカッション	前回のノートを見直す。復習学習として、わからなかった言葉を再度学びなおす。		
8	地域開発と環境破壊について、地域の自立・再生とは何かを学ぶ		講義 ディスカッション	準備学習としてこれまでのノートを学びなおし、A4 サイズノート1枚にまとめ直す。わからなかった問いをノートから再度確認する。		
試	達成度評価・評価のポイント参照					

【総合基礎科目領域/人間基礎科目群】

達成度評価								
総合評価割合（％）			試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
			0	50	0	0	50	100
総合 力 指 標	知識・技術力		0	30	0	0	0	30
	思考・推論・創造する力		0	10	0	0	0	10
	協調性・リーダーシップ		0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力		0	0	0	0	0	0
	コミュニケーション力		0	5	0	0	25	30
	取組みの姿勢・意欲		0	5	0	0	25	30
	問題を発見・解決する力		0	0	0	0	0	0
評価のポイント							フィードバックの方法	
評価方法	行動目標		評価の実施方法と注意点					
試験	①							
	②							
	③							
レポート	①	✓	レポート：課題を与える。 評価：課題に沿った内容についてのレポートみられること。				レポート評価・添削	
	②	✓						
	③	✓						
成果発表	①							
	②							
	③							
ポートフォリオ	①							
	②							
	③							
その他	①	✓	出席は当然のことであるが、授業に臨む姿勢として、貢献度（発言・態度）により加算する。				評価・添削	
	②	✓						
	③	✓						
備 考								
他 担 当 教 員								
教 員 の 実 務 経 験		担当する教員は、大学における教育経験を 10 年以上有したものである。						
実践的授業の内容		毎回のミニッツノートから講義の理解度を図る。また授業態度や講義中の質問に発言する貢献度を鑑み、レポートと総合して評価を行う。						
そ の 他								